

中央大学はマナーを大切にします。

いつも中央大学陸上競技部長距離ブロックへあたたかいご声援をいただき、ありがとうございます。

関東学生陸上競技連盟からの注意・禁止事項を記します。
応援して下さる皆さま自身の安全のためにも必ずご一読いただきくれぐれも順守願います。

箱根駅伝の沿道での応援に関するお願い

沿道で応援していただく皆さまに、箱根駅伝は育てられてきました。これからも、末永く愛される箱根駅伝でありたいと思っております。是非とも、応援マナーにご協力をお願いします。

禁止事項

- 脚立を使つての応援は危険です。
- ガードレールや橋など、沿道公共物への横幕、旗、のぼり等をくくりつけることはできません。
- 自動車、自動二輪車、自転車等の車両による応援は危険であり、交通渋滞を招きます。
- 混雑緩和と、応援者の場所取りなどによる混乱を避けるため、スタート地点、フィニッシュ地点、中継所の前後 100m以内では出場校を示す物は提出できません。
- 例) 校旗、部旗、その他、大学を標示する横幕、旗、大学新聞の配布等。
- 道路上での応援は危険です。必ず歩道から応援してください。
- ペットをお連れの方は道路に出ないよう、ご配慮ください。
- 選手は歩道ギリギリを走ってきますので、歩道から手や身体を乗り出しての応援は危険です。
- コース周辺での無人飛行機（ラジコン、ドローン）の操縦、飛行、自撮り棒の利用はできません。

【応援部の応援場所】については、中央大学公式 Web サイト内【中央大学駅伝応援サイト】の新着ニュースでお伝えする予定です。

中央大学駅伝応援サイト 検索

行 動 す る 知 性。



〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1
中央大学広報室

このパンフレットは大会当日に配布することを禁止されています。

中央大学の箱根路 — 赤い櫓の軌跡 —



第7回大会総合初優勝記念 1926年 錦町校舎前 『中央評論』172号 グラビアより

箱根駅伝のなかの中央大学

1920年にはじまった箱根駅伝は、アジア太平洋戦争のため一時中断しましたが、戦後復活を遂げて今回で94回を数えます。

中央大学は、今大会を含めて91回の最多出場を誇り、また連続出場87回、総合優勝14回、大会6連覇といった数々の輝かしい偉業を成し遂げてきました。

箱根駅伝の長い歴史のなかで赤い櫓を懸命につないできた中大アスリートたちの奮闘の軌跡をここで少したどってみましょう。

悲願の総合初優勝 — 第7回大会 —

中央大学は、1921年の第2回大会に初出場しました。その時の総合成績は参加7校中、最下位でした。選手たちはその悔しさをばねに猛練習に耐え、5年後の第7回大会（1926年）でついに総合初優勝を果たしました。その時のメンバーは佐藤政視、中川英男、山本光三、津島仙太郎、平野太郎七、山崎岩男、西川行雄、宮本源太郎、文天吉、湯本幸一の10選手でした。記録は14時間17分31秒でした。

大会6連覇の金字塔 — 第35回大会～第40回大会 —

1948年の第24回大会で2回目の優勝を遂げた中央大学は第26回（1950年）、第27回（1951年）大会で浅井正、菊池由紀男、高杉良輔、安藤寿雄、西田勝雄、田辺定明、南木信吾、黒木弘行、室矢芳隆、林田洋之介、富山孝次、浅倉茂らの活躍で連覇を果たし第29回大会（1953年）でも優勝を飾りました。

勢いづいた中央大学は桜谷嘉彦、佐藤光信、吉田斉、谷敷正雄、布上正之、菊地直志、西村良三らを擁して第31回（1955年）、第32回（1956年）の両大会で再び連覇を達成しました。

そして第35回大会（1959年）から第40回大会（1964年）まで栗原正規、二宮隆明、山本正澄、南館正行、田中光城、作田誠一、杉崎孝、留野豊昭、中村健司、山崎務、猿渡武嗣、岩下察男、横溝三郎、師岡滋喃、井上鉄石、若松軍蔵の区間賞、選手たちが一丸となって力を発揮し、大会6連覇の金字塔が打ち立てられました。この記録は箱根駅伝史上、燦然として光輝を放ち続けています。

14回目の総合優勝 — 第72回大会 —

大会6連覇達成後、優勝から遠ざかっていた中央大学は、1996年の第72回大会で34年ぶり14回目の総合優勝を果たしました。

この大会では榎木和貴（4区）、工藤利寿（6区）、川波貴臣（8区）の3選手が区間賞をとる活躍を見せました。総合成績は11時間4分15秒でした。

今回、中央大学は2001年の第77回大会において往路優勝したとき5区で力走した藤原正和選手（現駅伝監督）の指揮のもと本選に挑みます。

箱根駅伝における本学の歴史と伝統を承継ぎ、赤い櫓をつないで力走する選手たちに熱き声援をお願いいたします。

行 動 す る 知 性。

